

鳥取市立福部未来学園 9年生 中川 紗蘭

私は毎朝、徒歩で学校に通っています。家から学校までは十分ほどの道のりで、通学時間は友達と話したり、私にとって楽しい時間でもあります。だけどもある日、いつも通りの通学で交通安全について深く考えさせられる出来事がありました。

その日は少し寝坊して、いつもより早足で通学していました。通学路の途中に、信号のない横断歩道があります。私はいつものように、少し急ぎながら横断歩道の前に立ち、左右を確認して渡ろうとしました。そのとき向こうから車が一台近づいてきていましたが、私は「きっと止まってくれるだろう」と思い、そのまま横断しようと思いました。ところがその車はまったく減速せず、横断歩道をそのまま通り過ぎていったのです。

私はとっさに足を引いて立ち止まりました。ほんの数歩、先に進んでいたら、もしかしたら事故になっていたかもしれません。心臓がドキドキして、しばらく驚いていました。

それまで私は、車は歩行者がいたら止まってくれるものだと、どこかで当たり前のようには思っていました。でも、この出来事をきっかけに、「車って、歩行者がいても止まらないことがあるんだ」と気づきました。そして、「自分が正しくても、安全とは限らない」という現実を知ったのです。

その日から私は、道を渡るときの意識が大きく変わりました。たとえ自分が横断歩道に立っていても、車が完全に止まるまで絶対に足を踏み出さないようにしています。また、運転手の目線や速度などもしっかり見るようになりました。「大丈夫」と思っている、その前に立ち止まることが、自分の命を守る行動になるのだと学びました。

さらに、交通安全は自分だけの問題ではないことにも気づきました。友達と一緒に歩いているとき、話に夢中になって前を見ていなかったり、音楽を聴きながら歩いている人を見かけたりすることもあります。私はそういうとき、「ちょっと危ないかも」と声をかけるようにしています。最初は少し気が引けましたが、友達が「ありがとう」と言ってくれてからは、自分の行動にも自信が持てるようになりました。

私たちは毎日の通学の中で、たくさんの「当たり前」を繰り返しています。でも、その当たり前の中にこそ、危険がひそんでいるかもしれません。だからこそ交通ルールを守ることはもちろん「自分がどう動けば安全か」といったことを考えながら行動するのはとても大切なことだと思います。

これからも私は、毎日の登下校の中で「大丈夫の前に立ち止まる」気持ちを忘れずに、安全第一で行動していきたいです。